

太田宿ゆかりの偉人をめぐる

「木曾のかけはし、太田の瘦し、碓氷峠がなくばよい」と言われ、中山道の難所として知られた太田宿ですが、ここは、宿駅としての機能だけでなく、後に太田代官所が設置されるなど木曾川筋の軍事・政治・経済の重要な拠点として位置づけられたのです。そのせいでしょうか、文豪の坪内逍遙、槍ヶ岳を開山した播隆上人、世界的な地理学者である志賀重昂など、太田宿には、日本の歴史に残る偉人ゆかりの地が多くあります。(距離約1.7km)

太田宿中山道会館のシンボル、巨大なエノキ

太田本町1

太田本町4

太田本町5

高木場跡 ⑦

旧太田宿本陣門 ⑧

酒蔵 ⑩

① 太田宿中山道会館

② 長屋門

③ 川並番所跡

④ 虚空蔵堂

⑤ 太田代官所跡

⑥ 弥勒寺跡

⑨ 旧太田脇本陣林家住宅

⑪ 旧小松屋吉田家住宅

⑫ 祐泉寺

⑬ 太田稲荷

⑭ 太田の瘦し

スタート
ゴール

播隆上人
江戸時代後期、越中国(現富山県)生まれ、浄土宗の僧侶となる。北アルプスの槍ヶ岳(標高3,180メートル)を開山したことで知られる。

志賀重昂
日本を代表する地理学者であり、政治家・政治評論家・ジャーナリストとしても活躍した。日本の風土の素晴らしさを紹介する『日本風景論』は当時のベストセラーとなった。
『日本ライン』『恵那峡』などの命名者でもある。

坪内逍遙
岐阜県加茂郡太田宿生まれで、父は代官所時代の明治を代表する近代文学の開拓者で『小説神髓』『当世書生気質』等を書く。『エイクスピア全集』を翻訳するなど日本の近代文学発展への功績は大きい。

太田宿
ゆかりの
偉人たち

太田宿の見どころ

① 太田宿中山道会館
太田宿をめぐる旅の出発点で、中山道太田宿の歴史文化、江戸時代の宿場や旅の様子を紹介する展示室や飲食コーナー、物産販売コーナーなどがあります。駐車場の中央にある巨木はエノキで、毎年冬にはヒレンジャクが飛来することでも知られています。

② 長屋門
元太田町長林五郎旧宅(現座馬家)の総材造りの長屋門は嘉永元年(1848)の建築で貴重な建物です。

③ 川並番所跡
尾張藩が木曾川一帯の舟運と材木に関する監視を行う役所で、通行する筏や舟を管理し、洪水などで流失する御用材を集めたり、盗木の監視、船荷の改めをしていました。

④ 虚空蔵堂
坪内逍遙が、かつてよく遊んだといわれる虚空蔵堂。逍遙は、晩年に夫婦で太田宿を訪れた際に、当時を懐かしみ隣に立つ「ムクの木」の前で写真を撮影していました。

⑤ 太田代官所跡
尾張藩の代官所が置かれ木曾川に沿った尾張領5万4千国の村々を統括していました。代官所の中に役人の家があり、坪内逍遙はそこで生まれました。

⑥ 弥勒寺跡
新田次郎の「槍ヶ岳開山」に、播隆上人が太田宿に立ち寄った場所として登場します。播隆上人は南側の敷地に葬られましたが、廃寺に伴い現在は祐泉寺に墓碑が移っています。

⑦ 高木場跡
この辺に高木場がありました。ここから南に向かうと虚空蔵堂、北は関に向かう道でした。

⑧ 旧太田宿本陣門
文久元年(1861)に、仁孝天皇の皇女和宮が14代将軍徳川家茂に嫁ぐために下向した際に新築された門です。元は、本陣の西正門であったものを東門のあった現在地に移したもので、旧本陣の偉容を偲ばせる格式のある門です。

⑨ 旧太田脇本陣林家住宅
明和6年(1769)に建てられた国重要文化財の建物で、格子戸・連子窓・屋根の両端にあがるうだつなど、江戸時代そのままの姿を今に伝えています。明治15年(1882年)板垣退助が岐阜で遭難する前日に逗留した場所としても有名です。

⑩ 酒蔵
立派な酒蔵の壁が続いているここは、明治26年の創業の御代櫻醸造。毎年、春と秋に酒蔵が開放されます。

⑪ 旧小松屋(吉田家住宅)
江戸時代に旅籠を営んでいた建物を、そのまま活用した太田宿のお休み処です。庭は、加茂農林高校の生徒によってつくられました。美濃加茂市出身の文学者・坪内逍遙らの展示もあります。

⑫ 祐泉寺
500年の歴史をもつ臨済宗の古刹。境内には、松尾芭蕉句碑・坪内逍遙歌碑・北原白秋歌碑などがあります。

⑬ 太田稲荷
槍ヶ岳の開祖として知られる播隆上人の墓碑と、美濃加茂から犬山までの木曾川の景観を「日本ライン」と命名した志賀重昂の墓碑を見ることができます。

⑭ 太田の瘦し
「木曾のかけはし、太田の瘦し、碓氷峠がなくばよい」とうたわれた木曾川の瘦削場跡で、史跡が建ち石畳が残っています。一帯は化石林公園として整備されています。